



受験の根本

昨日のY屋先生のエッセイは1年生向けのものだが、ちょうど今ごろに君たちが読んで参考になったのではないと思う。なにせ「不安」というのは、この時期の受験生のキーワードの一つに違いない。だから、あのエッセイを読むと、不安の原因（想像思考、比較思考）として分析されていることは、まさにその通りだろうと納得できるし、だからこそ「今に生きる」、つまり、今やらなければならないことに集中し、それを積み上げていくということの重要さも、よく分かるのではないと思う。

とにかく、今は自分の目標に向かって「今に生きる」時期なのである。やらねばならないことをもう一度明確にして、それを「やる」ことが大切だ。

*

話は変わるが、数号前に自己採点がないという話を書いたが、では、それを解消するにはどうしたらイイのだろうか。

ベネッセの模試担当の方と担任団が話し合いをした際には、そのことも話題になった。

で、その担当者の方がおっしゃるには、

A 最後にまとめてマークシートに答えを写すというはよくない。

B 大問を終えたごとに、自分の解答とマークシートを照らし合わせながら確認するのがよい。

C そうすると、解答欄のズレなどに気づくこともできる。

ということであった。へえ～、そんなものなのかと思った。

ところで、君たちはどのタイミングで解答

用紙のマークをしているのだろうか？

多くの人は、

- 1 問題を解く。
- 2 問題用紙の正しい解答の番号を丸で囲んだり黒く塗りつぶしたりする。
- 3 大問が終わったら、それをまとめてマークシートに写す。

という方式だろうか（つまり、Bのようなやり方）。それとも、問題を解きながら問題用紙とマークシートの両方にマークしているのだろうか？（これは効率が悪い気もする一方で、間違いが少ない気もするが…）

とにかく、一番よくないのは、最後にまとめてマークシートに写すというやり方（つまり、Aのようなやり方）で、これは時間配分を間違えると、マークシートに写す時間がなくなって0点になってしまうという危険性があるうえに、ズレもおこりやすい。

どちらにしろ、選択肢を迷う問題、つまり見直し段階で再度考えてみなければならないといった問も出てくるに違いない。その最後まで迷った問題について、最終的にどの選択肢を選んだのかをしっかりとメモし直すなり、記憶するなりしておいて、自己採点に誤りがないようにすることが大切だろう。

*

受験の根本は、ある意味こんなところにあるのではないかと私は思っている。つまり、自己採点もまともに出来ないようでは合格もおぼつかないということである。出願期間を守って願書をしっかりと書く、そんなことができないようでは、合格もあり得ないのである。